

Hem21 NEWS

公益財団法人
ひょうご震災記念21世紀研究機構
ニュース

「Hem21」は、ひょうご震災記念21世紀研究機構の英語表記である
Hyogo Earthquake Memorial 21st Century Research Instituteの略称です。

VOL. **60** 平成28年 (2016) 11月

CONTENTS

- ①～③ 第17回アジア太平洋フォーラム・淡路会議を開催
HAT神戸掲示板
- ④ 人口減少、少子・高齢化社会におけるQOLの向上をいかに図るか
- ⑤ 情報ひろば
- ⑥～⑧ 人と防災未来センター
MIRAI

管理部

研究調査本部

人と防災未来センター

こころのケアセンター

学術交流センター

第17回となるアジア太平洋フォーラム・淡路会議が、8月5日(金)、6日(土)の両日にわたり淡路夢舞台国際会議場(淡路市)で開催されました。テーマは「TPPから始まる大競争時代のアジア太平洋―ヒト・モノ・カネ・情報―」。



国際シンポジウムの様子

1日目の国際シンポジウムでは、アジア太平洋地域に関する優れた人文・社会科学領域の博士論文を顕彰する第15回アジア太平洋研究賞(井植記念賞)の授賞式の後、3人の講師に記念講演をしていただきました。

林芳正氏(参議院議員、元農林水産大臣)は、「TPP協定をめぐる情勢」と題し、「政府は、GDP(国内総生産)に所得収支(海外からの利子・配当などの受取額)を加えたGNI(国民総所得)を最大化するために、『産業投資立国』の方針を打ち出している。最大化するためには、まずわが国が『投資大国』になる必要がある。日本人や日本企業が投資する環境を整える上で、ヒト・モノ・カネ・情報の障壁を低くするTPPは大きな意味を持っている」と述べました。その上で、「この先20～30年、人口が減っていく日本でヒト・モノ・カネ・情報が自由に行き来できる大きな経済圏をつくることは大変意味のあることで、世界の三極の中で唯一政治的に安定している日本が、TPP

第17回アジア太平洋フォーラム・淡路会議を開催

の発効に向けてしっかり仕事をしていかなければならない」と述べました。

宮本雄二氏(元駐中国大使、宮本アジア研究所代表)は、「台頭する中国と世界」と題し、「21世紀は、経済の相互依存が進んで世界が一つにつながる時代であり、科学技術の進歩が兵器の破壊力を一挙に高め大国同士の戦争を不可能にした時代でもある。そうした中で、人類は平和と発展を実現するためのルールとしてリベラル・エコノミーとリベラル・デモクラシーという仕組みを考え出した」と述べました。そして、「国際社会最大の課題は、中国がリベラル・デモクラシーとリベラル・エコノミーの段階に達しておらず、急速に軍事力を増強して狭い国益を実現しようとしていることだ」と指摘しました。その上で「わが国は、経済では中国と手を組んで中国がさらに成長できるような国際システムを進めながら、一方で軍事・安全保障の面では厳しく臨む、という対中二重アプローチを取りつつ、国民レベルで中国との対話を深め、リベラル・デモクラシーとリベラル・エコノミーという世界共通であるべき仕組みを早く共有できるよう働き掛けなければならない」と述べました。

杉原薫氏(政策研究大学院大学特別教授)は、「アジア太平洋経済圏と中国の台頭～歴史的展望」と題し、「戦後、日本・韓国・台湾・香港・東南アジアの一部から成る西太平洋の沿岸部を巻き込んでアジア太平洋経済圏が成立し、ASEANからAPECあるいはTPPに至る地域統合の流れが形成された。また、こうした遠隔地貿易に先立って、20世紀前半までの数世紀にわたってアジア地域間貿易が成長し、それが現在の東アジアの高度成長の背景にある」「東アジアでは、土地や資源が少ない中で労働集約型の工業化が実現していたが、タンカーの出現などが遠隔地貿易と地域間貿易とのリンケージをもたらし、



フォーラム・基調提案の様子

爆発的な高度成長が実現した」と述べました。また、「アメリカは伝統的に保護主義が強い国で、EUとともに、遠隔地貿易と地域間貿易とのリンケージを制限しがちだが、このリンケージの維持にアジアの自由貿易体制の将来が懸かっている」と述べました。

2日目は、淡路会議の会員を対象としたフォーラムを開催し、3人の講師に基調提案をしていただきました。

木村秋則氏〔(株)木村興農社代表取締役〕の演題は「奇跡のリンゴ園から見る世界」。「肥料・農薬・除草剤などの生産資材は緑の革命といわれるほどの生産性の向上をもたらした。その結果、食料が豊富に得られるようになり、農家は重労働から解放された。その貢献は多大な反面、すでにあちらこちらにひずみを生じさせてきており、日本がアジアをはじめとする世界に向けて環境保全の必要性を発信すべき」と述べました。具体的には、ヨーロッパに比べて遅れている農作物の硝酸態窒素濃度(肥料がもたらす有害物質)の早急な規制の必要性や、昔と比べて著しく低下した野菜の栄養価などの問題点を指摘し、安心のおける食材と環境保全を考えた農業として、自身が進める肥料・農薬・除草剤を使わない自然栽培を提案しました。

中沢孝夫氏(兵庫県立大学客員教授)の演題は、「日本のものづくりとグローバル化」。「日本は1950年代から、さまざまな貿易摩擦を引き起こし、自主規制と外交交渉を繰り返してきた。一方では、貿易摩擦を緩和するため、消費地に近い場所で現地生産する海外展開が進んだ」と述べました。また、「日本は先端技術よりも『工程』のイノベーションという目に見えない部分の競争力が優れている。それ故に、ここ10年ほどは、日本は貿易摩擦という言葉から外れている」と述べました。さらに、「世界的に標準化が進

み、今は標準化の中でどうやって比較優位をつくり出すかが問われる時代になっている」「過去のような貿易摩擦から自主規制という時代はとうに終わり、争いの土俵が変わっている」と指摘しました。そこで、「全てにわたって日本が勝つことはできないので、日本が得意とする目に見えない部分での得意技を伸ばすべきだ」と提案しました。

塩瀬隆之氏(京都大学総合博物館准教授)の演題は、「大競争時代／大共創時代を生き抜くヒトの育成」。「まず、ラジコンヘリとドローンの区別がつかないというのが、今、日本の製造業が抱えている課題の一つではないか」「この二つには、人が操縦しているかないかという大きな相違点があるが、この差異を理解できるかどうかは、これからのものづくりの新潮流を占う上で重要な観点だ」と指摘しました。それを踏まえて、「これまで日本では、同質性の高い集団の中で右に倣う練習しかしてこなかったが、これからは多文化の中で違いを認めて生かすような包摂的な組織デザインが必要」と提案しました。また、状況の変化に適應する力を得るために学び直す重要性を指摘し、さらには能動的なキャリアデザインをする力を子どもたちに身に付けさせる教育の重要性を提案しました。

基調提案の後、参加者は、TPP等新たな経済連携への対応、ビジネスの新潮流(ニューウェーブ)－勝ち組の戦略、大競争時代を生き抜くヒトの育成の3つの分科会に分かれ、それぞれのテーマで活発な討論が展開されました。

午後からの全体会では、初めに討論の概要について各分科会の座長から報告をいただいた後、参加者全員でさらに議論を深め、最後に五百旗頭真〔(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構理事長〕から総括と謝辞が述べられ閉会しました。



フォーラム・全体会の様子

■国際シンポジウム(8月5日)

◆記念講演

①TPP協定をめぐる情勢

講師：林 芳正(参議院議員、元農林水産大臣)

②台頭する中国と世界

講師：宮本 雄二(元駐中国大使、宮本アジア研究所

代表)

③アジア太平洋経済圏と中国の台頭～歴史的展望

講師：杉原 薫(政策研究大学院大学特別教授)

コーディネーター：三重野 文晴(京都大学東南アジア研究所教授)

■フォーラム(8月6日)

◆基調提案

コーディネーター:大西 裕(神戸大学大学院法学研究科教授)

①奇跡のリンゴ園から見る世界

講師:木村 秋則[(株)木村興農社代表取締役]

②日本のものづくりとグローバル化

講師:中沢 孝夫(兵庫県立大学客員教授)

③大競争時代/大共創時代を生き抜くヒトの育成

講師:塩瀬 隆之(京都大学総合博物館准教授)

◆分科会

第1分科会「TPP等新たな経済連携への対応」

座長:佐竹 隆幸(関西学院大学専門職大学院経

営戦略研究科教授)

第2分科会「ビジネスの新潮流(ニューウェーブ)-勝ち組の戦略」

座長:中尾 優(特許業務法人有古特許事務所所長)

第3分科会「大競争時代を生き抜くヒトの育成」

座長:窪田 幸子(神戸大学大学院国際文化学研究科教授)

◆全体会

コーディネーター:村田 晃嗣(同志社大学法学部教授)

◆総括と謝辞

五百旗頭 真[(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構理事長]

HAT神戸 掲示板

兵庫県立美術館

特別展

「日伊国交樹立150周年記念 世界遺産 ポンペイの壁画展」

光あふれる地中海に面した南イタリアの街、ポンペイ。西暦79年、ヴェスヴィオ火山の噴火により、悲劇的な終焉(しゅうえん)を迎えます。1748年から発掘が始まり、古代都市の姿が徐々に明らかになりました。遺物の中で特に人々を驚かせたのは色鮮やかな壁画で、古代ローマの人々は住宅や公共建築など、さまざまな建物を美しい絵画で飾っていました。本展では、世界遺産に指定されたポンペイとその近郊の遺跡から出土した壁画を紹介。2000年の時を超え、当時の豊かな暮らしが感じられる展覧会です。



《踊るマイナス》後1世紀後半 ナポリ国立考古学博物館

©ARCHIVIO DELL'ARTE - Luciano Pedicini / fotografo

■会期=12月25日(日)まで

■観覧料=一般1,500円、大学生1,100円、高校生・65歳以上750円、中学生以下無料

県美プレミアムⅡ

《小企画》ハナヤ勤兵衛の時代デユ!!

芦屋を拠点に活躍した写真家、ハナヤ勤兵衛(1903-91)の作品展です。95年に芦屋市立美術博物館で開催した回顧展以来で、戦前のヴィンテージ・プリントをはじめ、さまざまな資料を展示予定です。



ハナヤ勤兵衛《ナンデユ!!》1937年 個人蔵

県美プレミアムⅢ

《特集》彫刻大集合

ロダンをはじめ、近代の人体彫刻から、抽象性や構成に比重を置いた20世紀前半の作品、素材や制作のアイデアが多様化した今日の立体まで、主要な彫刻・立体を約40点展示。彫刻の展開と変遷を振り返ります。

■会期=2017(平成29)年3月19日(日)まで

■観覧料=一般510円、大学生410円、高校生260円、65歳以上255円、中学生以下無料

◎休館日=月曜日

◎開館時間=10時~18時(金曜、土曜は20時まで)

※入場は閉館の30分前まで

TEL 078-262-0901(代) http://www.artm.pref.hyogo.jp/

JICA関西

◆食べることから始める国際協力!

JICA関西食堂の月替りエスニック料理

JICA関西1階の食堂(カフェテリア方式)は、どなたでも利用できます。完全禁煙で、安心して料理を楽しめ、子供椅子も用意していますので、お子様連れも歓迎です。大好評の月替りエスニック料理は12月にブータン料理、1月に震

災特別メニューをご用意します!ぜひ、お気軽にお立ち寄りください。

メニューの詳細と写真については、こちら→ <http://www.jica.go.jp/kansai/office/restaurant/index.html>

■営業時間=(昼)11時半から14時まで (夜)17時半から21時まで

※各終了30分前ラストオーダー

※年中無休(年末年始を除く)



写真は11月のインドネシア料理

◎問い合わせ

JICA関西(独立行政法人国際協力機構関西国際センター)市民参加協力課

TEL 078-261-0384 FAX 078-261-0357

Eメール jicacsic-event@jica.go.jp

その他、詳細はJICA関西ホームページをチェック!

→<http://www.jica.go.jp/kansai/>

日本赤十字社 兵庫県支部

活動資金にご協力をお願いします



10月21日に発生した地震で、大きな被害が出ている鳥取県。日本赤十字社は、直ちに先遣隊と救護班を派遣し、医療ニーズ調査や巡回診療のほか、被災地病院の患者の転院活動支援、救護物資の配布、日赤防災ボランティアによる炊き出しなどを行いました。

赤十字が行う活動は、皆さまからお寄せいただく活動資金によって支えられています。いただいた資金は、鳥取県中部地震で被災された方々の支援をはじめ、今後起こり得る災害への備えなど、皆さまのいのちと健康を守る活動に生かしてまいります。

■ご協力方法(郵便局・ゆうちょ銀行の場合)

口座記号番号 01110-0-1136

口座加入者名 日本赤十字社兵庫県支部

※窓口で取り扱いの場合、振込手数料は無料です

平成28年度、災害救護支援センターを整備!!



大規模災害に備え、全国各地の被災地への支援や全国からの受援の拠点となる施設の整備を計画しています(場所:三木市)。

◎問い合わせ

TEL 078-241-8921

赤十字 兵庫

検索

人口減少、少子・高齢化社会におけるQOLの向上をいかに図るか



研究員 米川安寿

はじめに

「人口減少、少子・高齢化社会におけるライフスタイルと社会保障のあり方について～地域におけるクオリティ・オブ・ライフの実現に向けて～」研究会では平成27年度から、兵庫県内の高齢者のQOL(生活の質)をいかに良いものにしていくかを課題に、専門の違う研究者が集まり、学際的に、さらに多角的な議論に触発されながら研究を進めてきた。そのいくつかの研究の側面を紹介する。

兵庫県の高齢者に関する将来推計と高齢者の意識調査

国の人口予測、ことに高齢化に関しては、これまで大きく下方におれてきた。少子高齢化社会のQOLを考える当研究会では、兵庫県の人口予測を見直してみようということになった。人口は現在の520万人から2050年には440～480万人前後に減少し、また高齢者人口は、現在の26～40%程度に増加することが分かった。世代間移転収支を計算し、兵庫県の人口や財政の状況を50年まで推計してみると、高齢者を支えるための収支は15年より30%以上大きくなる。

その一方、「県民意識調査」と「兵庫のゆたかさ指標」の個票を分析してみると、高齢者は一般に、70歳代まではまだまだ社会活動に意欲的であることが分かった。上記の予測は、生産年齢は15～65歳を前提として計算したものであり、どうも現実的ではない。そこで高齢者の定義を20～70歳に変えるとどうなるか、という発想の転換の下、現在、世代間移転収支の計算をしているところである。

在宅医療に関する新たな視座

また高齢者医療・介護はQOLを考える上で避けて通ることとはできない。兵庫県の6市町(赤穂市・篠山市・太子町・多可町・高砂市・西脇市)のレセプトデータを使って、訪問診療の地域別実施状況を詳しく分析した。病床数は今後削減される予定であるが、これに伴い在宅医療の促進や介護体制の見直しが必要となってくるのは必定である。井出博士研究委員の訪問看護・訪問診療の分析によると、人口の多

い地域は地域内の診療所から訪問診療を受けることが多く、人口の少ない市町では域外の診療所の診療を活用しているケースが多いのが分かった。一般に医療機関は16km以内、時間で90分以内の地域に出張に出る。この分析からの政策的含意は、今後人口が増える見込みがない地域では、医療施設を増やすよりも、域外の診療所のサービスを積極的に活用する方が効率的ということだ。また、医療機関の出張旅費に対しての補助も高知県で実施されており、参考になろう。訪問看護や訪問診療については、より地域の特性を踏まえた柔軟な計画をすることが、サービス向上と予算削減につながる。

留学生の関西志向と必要な就職情報

高齢者への対策のみならず、労働不足への対応も喫緊の課題である。安倍政権も重い腰を上げて外国人労働者の農業分野への導入をスタートし、これまで以上に積極的な政策を掲げ始めている。留学生は大事な労働力であるという観点を政府は強調しているが、当研究会では初めからそういう視点で留学生へのアンケート調査を基に分析を進めてきた。関西の大学に通う留学生へのアンケートによると、「外国人・留学生に関する情報が少ない」と答えた割合が36%もある。また、日本語での筆記試験への対応の困難(48.1%)、就職活動の時期が早い(44.4%)など、留学生に配慮した制度になっていないことが分かってきた。

今後、留学生を兵庫県内に引き留めるためには、外国人採用の情報を分かりやすく公開し、また留学生に対して日本人と同じ採用方法を採用のではなく、臨機応変な対応が求められる。就職マッチングフェアなどの開催も一案である。関西で暮らしたいと考える外国人は日本文化も理解しており、外国語も活用できる人材として取り込むことが必要である。

当研究会では今後、幅広い分析の結果から総合的なQOL向上の政策提言をまとめていく。来年度の公開シンポジウムにはぜひとも足を運んでいただきたい。

兵庫県こころのケアセンター

兵庫県こころのケアセンター
平成28年度第2期「こころのケア」研修の受講生募集

兵庫県こころのケアセンターでは、「こころのケア」に携わる保健・医療・福祉・教育等の分野で活動されている方を対象に、各種課題への対処法等について学ぶ「専門研修」を実施しています。

来年1月から2月にかけて実施する研修の受講生を次の通り募集しています。ぜひご参加ください。

▶ 研修概要

区分	コース名	期間	定員	対象	受講料 (資料代等)
専門研修	①対人支援職のためのセルフケア	1/11(水) 12(木) (2日間)	35人	保健・医療・福祉関係の対人支援業務従事者(保健師、ケースワーカー、各種相談員、福祉施設指導員等)、教職員、スクールカウンセラー、保育職員	3,500円
	②消防職員のための惨事ストレスの理解と予防	1/25(水) 26(木) (2日間)	35人	消防職員	3,500円
	③発達障害とトラウマ	2/2(木)	35人	こども家庭センター(児童相談所)職員、福祉事務所職員等児童虐待関係職員、保健所職員、教職員、スクールカウンセラー、保育職員等	2,500円
	④子ども達のいじめのケア-加害と被害の連鎖-	2/15(水)	35人	教職員、スクールカウンセラー、教育委員会職員、こども家庭センター(児童相談所)職員、いじめ相談窓口の相談員、保育職員、児童福祉施設職員、司法関係職員	2,500円

▶ 場所=兵庫県こころのケアセンター

▶ 申し込み方法=所定の受講申込書(※)に必要事項を記入の上、郵送、FAX、Eメールのいずれかで下記へ。申し込み多数の場合は、各研修開始日の1カ月前(前月の同じ日)の17時を期限に、初めて受講する方を優先の上、抽選で決定します。

※下記ホームページからダウンロードできます

● 申し込み・問い合わせ

兵庫県こころのケアセンター 研修情報課
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2
TEL 078-200-3010 FAX 078-200-3017
Eメール kensyu@j-hits.org <http://www.j-hits.org/>

学術交流センター

研究情報誌「21世紀ひょうご」第21号
発行のお知らせ

現代社会の課題を的確に捉え、専門的立場から課題を分析・紹介し、具体的な提案を行う情報誌です。第21号では、「地域創生の理論と実践」をメインテーマに、地域創生に関する研究内容や地域資源を活かした地方自治体の実践事例を紹介し、これからの地域づくりを考えます。

▶ 内容

● 巻頭言

関西大学理事・社会安全研究センター長・教授
(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構 副理事長 河田 恵昭

● 特集 「地域創生の理論と実践」

①熊本震災における地域再生の支援活動・6カ月の記録

トクノスクール農村研究所理事長・熊本大学名誉教授 徳野 貞雄

②21世紀を先導する戦略的地域づくりの実践

飯田市長 牧野 光朗

③観光・交流による多自然地域の魅力づくり～兵庫県の2事例をもとに～

兵庫県立大学環境人間学部教授

エコ・ヒューマン地域連携センター長 三宅 康成

④「若い世代の逆流ポンプ」としての多自然地域の拠点都市地域の可能性

兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科教授

兵庫県立淡路景観園芸学校主任景観園芸専門員 平田 富士男

● トピックス

①アジア太平洋フォーラム・淡路会議(講演要旨)

・TPP協定をめぐる情勢(参議院議員、元農林水産大臣 林 芳正)

・台頭する中国と世界

(元駐中国大使、宮本アジア研究所代表 宮本 雄二)

・アジア太平洋経済圏と中国の台頭～歴史的展望

(政策研究大学院大学特別教授 杉原 薫)

②平成27年度研究成果報告会の開催

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構調査研究本部

③くまもと復興・復興有識者会議からの提言

● (公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構の研究調査報告書等一覧

▶ B5判 第21号約130ページ

※執筆等詳細については、当機構のホームページをご参照ください

http://www.hemri21.jp/the21_hyogo/index.html

▶ 発行=年2回

▶ 購読料=800円(送料別途)

※定期購読をされる場合は、年間購読料1,600円(送料込み)

● 申し込み・問い合わせ

学術交流センター TEL 078-262-5713 FAX 078-262-5122
Eメール gakujuitsu@dri.ne.jp

あった、あった、ここや。
えらい大きい会社やなあ、ドキドキしてきたわ。
あかん、鎮まれ心臓
営業マンに弱気は禁物、最初が肝心や。

初めて出会った
人と人とを
つなぐ。
それが、
わたしたちのしごとです。

「はじめまして。カワサキと申します」
名刺を交換したらお付き合いの始まり。
小さな紙片からどれだけ仕事広がるか、
さあ、ガンバルぞお～!

震災資料のメッセージ2016 第2期「1.17と道路」を展示中

資料室では、常設展示以外のコレクション公開を企図し、平成25年度から、西館3階有料ゾーンの一部にスポット展示「震災資料のメッセージ」を設置し、センターに寄贈された震災当時に使われた現物の一次資料を年度ごとにテーマに沿って紹介しています。

今年度のテーマは「1.17と鉄道・道路」。第1期「1.17と鉄道」では、阪急『伊丹』駅で被害を受けた阪急電鉄3109車両前面扉と、通勤に使用されていたJRの定期券を展示しました。

2017(平成29)年3月26日(日)まで開催中の第2期「1.17と道路」では、「道路」にスポットを当てて展示。各所で交通規制がかかる中、復興作業の関係車両を優先して通すための標章(復興物資輸送車両許可書)のほか、高速道路から今にも落ちそうなバスや、横倒しになった阪神高速道路の当時の被害状況や復旧の様子を写真パネルで紹介しています。



第1期展示の様子



第2期の展示資料

平成28年台風第10号による被害と対応状況に関する現地調査

今年、8月19日に日本の南海上で発生した台風第10号は、当初、南西方向に進み沖縄近海上で停滞した後、26日夜には進路を北東に反転し、大型で非常に強い台風となって30日午後5時30分ごろ、岩手県大船渡市付近に上陸しました。この台風による記録的な大雨の結果、岩手県や北海道において河川の濁流や増水等により甚大な被害が発生し、急峻で狭い谷底平野に集落が点在する山間部では、中小規模の土石流の発生に伴う道路寸断によって一時的に孤立状態に陥る事例が多数起こりました。

当センターでは、特に被害が集中した岩手県に研究員を派遣し、県庁での災害対応のほか、岩泉町の被害状況、避難所運営状況などのヒアリング調査を実施しました。

岩泉町内の避難所では、東日本大震災の経験を踏まえ、開設後、早期の段階で高齢者用に段ボールベッドを導入し、女性専用空間を確保。避難所内の清掃や食事の準備などの避難所運営に自主的に取り組んできましたが、長期化が予想されることから、避難者と支援者(ボランティア等)との連携方法や自宅避難者への対応方法などについて、過去の災害事例を基に情報提供を行いました。

この台風は、気象庁が1951(昭和26)年に統計を開始後初の東北地方太平洋側に上陸した台風であり、高齢者向け施設での避難のあり方や、中山間地での災害時の孤立集落対応、「避難準備情報」等の気象用語の再考が災害対策上の大きな課題として挙げられています。本調査についての詳細は、当センターホームページに掲載している「DRI調査レポートNo.47」(<http://www.dri.ne.jp/wordpress/wp-content/uploads/DRI-Report47.pdf>)をご覧ください。



ヒアリング風景



土砂による家屋被災の状況

「ALL HAT 2016」を開催しました

当センターでは、HAT神戸の協の浜・なぎさ両ふれあいのまちづくり協議会、なぎさ小学校、渚中学校とともに「HAT神戸防災訓練実行委員会」を設け、初開催となる地域合同での防災訓練「ALL HAT 2016」オールハット減災チャレンジ! シェイクアウト&体験プログラムスタンプラリー（HAT神戸防災訓練）を10月29日（土）に開催しました。

『午前9時34分に兵庫県南東部を震源とするマグニチュード7の地震が発生』という想定の下、家や学校、職場など自分がいる場所で各自、安全確保行動を行う一斉訓練「シェイクアウト」を実施し、その後、防災・減災を学ぶ多数の体験プログラムを当センターやなぎさ公園で行いました。

国土交通省近畿地方整備局、神戸市消防局、神戸市水道局等の協力を得て、実際にAED（自動体外式除細動器）に触れて使用方法を学ぶ「AEDの使い方講習」や、なぎさ公園の貯水槽から給水栓をつないで給水する「応急給水体験」、漂流ごみを回収する「海面清掃兼油回収船クリーンはりま船内見学」などを実施し、子どもから大人まで多くの方が多数のプログラムに参加しました。また、まちづくり協議会による炊き出しも行われ、作られた豚汁は渚中学校の生徒に手伝っていただき、来場者に提供しました。



「屋外救出&消火放水デモンストレーション訓練」



なぎさ公園での「応急給水体験」



地元のまちづくり協議会による炊き出し

イベントの最後に実施した「屋外救出&消火放水デモンストレーション訓練」では、西館南面を使って消防隊員による大型訓練が行われ、その迫力と正確な消火活動に来場者は歓声を上げました。

地域住民の方は楽しみながら防災・減災を学び、コミュニケーションを図る機会にもなったようです。

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

観覧案内・予約 / TEL 078-262-5050 <http://www.dri.ne.jp/>

開館時間 9時30分～17時30分（入館は16時30分まで）
※7月～9月は9時30分～18時（入館は17時まで）
※金曜、土曜は9時30分～19時（入館は18時まで）

入館料金

大人	大学生	高校生	小・中学生
600円(480円)	450円(360円)	300円(240円)	無料

※()は20人以上の団体料金
※障害者、65歳以上の高齢者は上記の半額

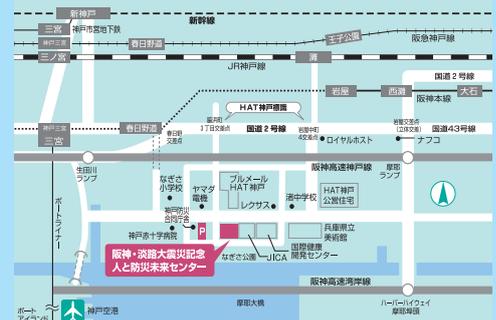
休館日

毎週月曜（月曜が祝日の場合は翌平日）、12月31日と1月1日
※ゴールデンウィーク期間中（4月29日から5月6日まで）は無休
※資料室の開室日についてはホームページでご確認ください

交通

- 鉄道**
- ・阪神電鉄「岩屋」駅、「春日野道」駅から徒歩約10分
 - ・JR「灘」駅南口から徒歩12分
 - ・阪急電鉄「王子公園」駅西口から徒歩約20分
- バス**
- ・三宮駅前から約15分
- 車**
- ・阪神高速道路神戸線「生田川」ランプから約8分
 - ・阪神高速道路神戸線「摩耶」ランプから約4分
 - ・阪急・阪神・JR「三宮」駅から約10分

●有料駐車場あり ●バス待機所（予約制／無料）あり



平成28年度秋期 災害対策専門研修マネジメントコースの実施結果

当センターでは、地方自治体職員などを対象とした「災害対策専門研修」マネジメントコースを平成14年度から実施しています。当該コースは災害対策実務の中核を担う人材の育成を目的とし、阪神・淡路大震災の教訓を学習することを重点としつつ、最新の研究成果も取り入れ、能力に応じた体系的・実践的なカリキュラムです。これまでに、延べ2,600人を超える方々が受講され、受講生からは高い評価を得ています。今回の秋期研修においては、中堅職員を対象としたエキスパートA、エキスパートBおよび首長を補佐する防災監等を対象としたアドバンスト／防災監・危機管理監の3コースを実施しました。

アンケートでは、「ワークショップ手法を習得でき、当局の課題も再認識できた」「目標管理型の災害対応の手法を繰り返し体験していくことで、だんだん理解が深まった」「他の自治体の方とコミュニケーションがとれる講義であり、いろいろな意見を聞くことで、新たな気づきがあった」「地域防災計画を改定するにあたり多くのポイントが確認できた」「各自治体の危機管理セクションのトップは必ず受講すべきコースだと思った」「これまで身に付けていた災害対策に加え、新たな視点での対応のやり方・考え方を取り入れることができた」「リスクマネジメントについて事前に考えておく必要があり、ノウハウが身に付いた」等の意見をいただいています。講義、演習による知識向上だけでなく、受講者間の交流を通じて防災担当者の全国的なネットワークが一層強まりました。

コース名	日程	受講者	修了者
エキスパートA	10月11日(火)～14日(金)	24人	24人
エキスパートB	10月18日(火)～21日(金)	25人	23人
アドバンスト／防災監・危機管理監	10月27日(木)～28日(金)	24人	24人
合計(延べ)		73人	71人



市民社会ワークショップ
(10月13日エキスパートA)



行政対応特論①丹波市豪雨災害での対応と教訓
(10月28日アドバンスト／防災監・危機管理監)



災害対策本部の空間構成設計演習
(10月19日エキスパートB)



災害対応検討ワークショップ
(10月28日アドバンスト／防災監・危機管理監)



Hem21 NEWS
vol.60

平成28年11月発行

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構
〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2(人と防災未来センター)
<http://www.hemri21.jp/>

当機構は、以下の組織で構成しています。

●管理部門
TEL 078-262-5580
FAX 078-262-5587

●研究調査本部
TEL 078-262-5570
FAX 078-262-5593

●人と防災未来センター
TEL 078-262-5050
FAX 078-262-5055

●学術交流センター
TEL 078-262-5713
FAX 078-262-5122

●こころのケアセンター
〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2
TEL 078-200-3010
FAX 078-200-3017

ニュースレターに関するご意見・
ご感想を機構までお寄せください